

●TOEIC●TOEIC●TOEIC●TOEIC●TOEIC●TOEIC●TOEIC●TOEIC●TOEIC●TOEIC●TOEIC●TOEIC●

TOEIC英語を勉強しようよ ブータンが英語の先生



商学部・井元麻記子さんの英語学習法

中央大学ではグローバル人材育成の一環で、英語力強化を多方面で推進中だ。

日ごろの勉強のほか、学友会文化連盟「英語学会」(ESS)でも英語を学ぶ商学部3年の井元麻記子さんは、TOEIC630点から785点へアップさせた。気になる勉強法を聞いてきた。

井元さんは1年次の春休み、ゼミ「ベーシック演習 国際人入門」でブータンを訪れた。人口約70万人。ブータンでは国の繁栄を国民総幸福量「GNH＝グロス・ナショナル・ハピネス」なるもので計る国として有名だ。2011年秋にはワンチュク国王が民族衣装を身にまといて来日。日本国民に“幸せの定義”を再考させた。

その幸せの国で、出会った人たちや子どもたちに英語でインタビューした。ほとんどがブータン人、なかにはブータンの大学に留学中の米国人もいた。

結果は「英語をもっと勉強しなくちゃ。もっと話せるようになりたい」と、もともと勉強熱心なタイプはさらなる向上を目指した。

TOEICの得点がぐんと伸びた。出発前、1年次12月の630点から、2年次10月には785点へ。

「勉強の基本は予習・復習です。これをノルマとして、元気なときに勉強するようにしていました。決めた時間帯にするより、気持ち優先で、いま元気だ、さあやろうって感じで」

照れながらも勉強のコツを教えてください。まとまった時間を充てるのではなく、元気時間を重ねることで、継続する力が出てくる。眠いときに机に向かってもいい結果は得られない。「勉強は元気なときに」は部活動で時間がないと嘆く学生にも通用しそうだ。

英語力への刺激はブータンのほか、ESSに入ってから受けたという。「今まで受験勉強でしか英語に触れることがなかったのですが、ESSに入って帰国子女や留学経験のある学生、さらには英語を母国語とする国の留学生らと話すようになって、英

語はコミュニケーションをとるためのツールと思うようになりました」

「英語を介して音楽を聴いたり、映画やドラマを見たり、海外旅行へ行ったり、趣味の幅が広がりました。案外聞き取れるもので“わかる!”って思ったときはうれかったです。純粋に英語を楽しんでいます」

この秋に米国カリフォルニア大学デビス校に留学する予定だ。

「留学は小さいころからなんとなくあこがれていました。(外国では)きっと大変なことばかりだと思いますが、せっかくの機会ですので、とことん楽しみたい。興味ある分野を学び、視野を広げ、将来を考えるきっかけにしたいと思っています」

キラキラした表情で話す井元さん。幸せ度は幸せの国ブータンでも高い評価を得られるはずだ。

●TOEIC●TOEIC●TOEIC●TOEIC●TOEIC●TOEIC●TOEIC●TOEIC●TOEIC●TOEIC●TOEIC●